

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	鹿児島大学
設置者名	国立大学法人鹿児島大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/zaimu.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/zaimu.html
財産目録	国立大学法人のため非該当
事業報告書	https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/zaimu.html
監事による監査報告(書)	https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/zaimu.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/H31jikohyoukasyo.pdf

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/ninsyo_kekka26.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 法文学部法経社会学科
教育研究上の目的 (https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/kyouikukenyuuuounomokuteki_gakubu.pdf)
(概要) <p>文系総合学部として、人文社会科学に関する基礎的体系的な知識の修得と、学問分野を横断した幅広い知識の修得を通して、人と社会、人と文化に関する論理的・科学的な思考力・判断力・表現力を育み、幅広い視野の下で身につけた人文社会科学の素養を地域の問題発見と課題解決に活用できる人材を育成することを目的とする。</p> <p>社会科学に関する基礎的体系的な知識の修得と、学問分野を横断した幅広い知識の修得を通して、人と社会に関する論理的・科学的な思考力・判断力・表現力を育み、幅広い視野の下で身につけた社会科学の素養を地域の問題発見と課題解決に積極的に活用できる人材を育成することを目的とする。</p>
卒業の認定に関する方針 https://kadai-houbun.jp/engine/wp-content/uploads/2021/04/shugakutebiki_r3.pdf
(概要) <p>(1) (汎用力) 法学，社会学，経済学を中心とした社会科学全般に関する基礎的知識と理系を含む学問分野を横断した幅広い知識を修得して，総合的な観察力を身につけている。</p> <p>(2) (思考力) 社会科学的手法に基づいて，地域社会や国際社会における諸課題を解決するための論理的かつ科学的思考力を身につけている。</p> <p>(3) (判断力) 社会科学の知識と手法を踏まえ，地域社会や国際社会の諸課題を適切に解決できる判断力を身につけている。</p> <p>(4) (表現力) 社会科学の知識を活用した論理的な思考によって自らの考えをまとめ，これを他者にわかりやすく説明できる表現力を身につけている。</p> <p>(5) (総合的実践力) 社会現象の中から解決すべき課題を発見し，多様な考えや視点を踏まえつつ，課題解決に向けたファシリテーション能力を備えるとともに，南九州を中心とした地域社会またはアジアを中心とした国際社会の発展に積極的に貢献する「進取の精神」を身につけている。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針 https://kadai-houbun.jp/engine/wp-content/uploads/2021/04/shugakutebiki_r3.pdf
(概要) <p>1. 初年次から卒業まで系統性のある教育課程の編成</p> <p>(1) 大学で学ぶ意味や学習の方法を理解し，他者とのコミュニケーションや情報処理など基本的なスキルを身につけさせるために，1年次から共通教育科目や法文スタンダード科目を配置し，これらを履修させます。また，これらの科目を履修させることにより，市民生活に必要な教養や規範を広く身につけ，社会に対する洞察力などを培い，</p>

将来社会人となる自己の人生設計について考える場を提供します。

- (2) 社会科学の諸分野について幅広く理解し、各コースの専門分野を学ぶ基礎的な方法を身につけさせるために、1年次に、基礎領域の学科共通科目（必修）として、「社会科学基礎」および「社会科学基礎演習」を配置します。また、基礎領域の学科共通基礎科目（選択必修）として、法学、社会学、経済学に関する基礎科目を配置し、社会科学の幅広い分野の基礎科目を履修させます。
- (3) 各コースの専門分野の知識を系統的に修得させるとともに、地域社会や国際社会の諸課題を適切に解決できる能力を涵養するために、活用領域および実践領域に配置された専門科目（選択科目）を、主に2年次から学年進行にあわせて段階的にこれを履修させます。
- (4) 就職など卒業後の進路を自ら探求することができるように、学部共通の法文アドバンスト科目に配置されているキャリア関連科目や地域関連科目などを履修させます。共通教育科目を幅広く履修させるとともに、専門科目を体系的に履修させることにより、社会の様々な場で活躍できる対応力をもった職業人としての基礎的な能力を身につけさせます。

2. 目的・目標に応じた方法による教育の実施

- (1) 社会科学に関する知識・能力を育むため、授業科目を三領域に区分して年次配置を行うとともに、学生に対してカリキュラム・マップを提示することにより、卒業までの履修期間における体系的効果的な学修を促す教育を行う。
- (2) 地域社会や国際社会に貢献できる市民を育成するため、学際的実践的な知識・能力を習得できる科目群を配置し、学生の自主的な学修を促す教育を行います。

3. 厳格な成績評価の実現

評価の客観性及び厳格性を確保するため、明確な成績評価方法と基準を策定するとともに、学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し、当該基準に基づき厳格な評価を行います。

入学者の受入れに関する方針

(<https://www.kagoshima-u.ac.jp/exam/RO3-ippan.pdf>)

(概要)

求める人材像

- (1) 社会科学の幅広い知識の修得を目指している人
- (2) 地域社会や国際社会における問題発見と、その問題解決に関心のある人
- (3) 社会の抱える問題に強い関心をもち、主体的に学習する姿勢をもっている人

学部等名 法文学部人文学科
教育研究上の目的 (https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/kyouikukenyuuujounomokuteki_gakubu.pdf) (概要) 文系総合学部として、人文社会科学に関する基礎的体系的な知識の修得と、学問分野を横断した幅広い知識の修得を通して、人と社会、人と文化に関する論理的・科学的な思考力・判断力・表現力を育み、幅広い視野の下で身につけた人文社会科学の素養を地域の問題発見と課題解決に活用できる人材を育成することを目的とする。 人文科学に関する基礎的体系的な知識の修得と、学問を横断した幅広い知識の修得を通して、人と文化に関する論理的・科学的な思考力・判断力・表現力を育み、幅広い視野の下で身につけた人文科学の素養を地域の問題発見と課題解決に活用できる人材を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 https://kadai-houbun.jp/engine/wp-content/uploads/2021/04/shugakutebiki_r3.pdf (概要) (1) 人文科学の各学問分野を学ぶための総合的な見方と基礎的知識を備え、理系を含む学問分野を横断した幅広い知識を習得している。 (2) 人と文化に関する論理的・科学的思考力を身につけている。 (3) 人文科学の知識を踏まえ、地域社会や国際社会における諸課題を適切に解決するための判断力を身につけている。 (4) 人文科学的知識を踏まえ、自らの考えを明解に伝えるプレゼンテーション力と、多様な考えや視点を理解し、協調できるコミュニケーション力を身につけている。 (5) 南九州特有の歴史・文化・環境や高度な専門的職業につながる分野についての知識を習得し、現場を熟知し、他者と協働し実践できる能力を備え、職場、地域社会および国際社会に積極的に貢献する「進取の精神」を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 https://kadai-houbun.jp/engine/wp-content/uploads/2021/04/shugakutebiki_r3.pdf (概要) 1. 初年次から卒業まで系統性のある教育課程の編成 (1) 人文学科では、人文学科の多様な専門領域に関する知識・技能を基礎から応用へと段階的に学ぶとともに、そこで得た広く深い知識・技能を、社会に生かす実践力まで高めるため、「基礎」「活用」「実践」の三つの領域に区分して教育プログラムを構成します。 (2) 1, 2年次の「基礎」領域には、人文科学の各領域を学ぶ上で必須とされる基礎的科目を配置し、基礎的な知識・技能を習得させるとともに、論理的・科学的思考力を養成します。 (3) 2, 3年次の「活用」領域には、人文学科の各領域に関する講義・演習・実習・実験等の科目を配置し、高度な幅広い知識・技能を獲得するとともに、地域社会や国際社会における諸課題を適切に解決するための判断力・プレゼンテーション力・コミュ

コミュニケーション力の育成を図ります。また、複数のカリキュラムに基づく履修モデルを学生に呈示することで、将来のキャリアを見据えた科目履修を促します。

- (4) 3, 4年次の「実践」領域には、卒業論文や実際の現場での活動を含む実習科目を配置し、人文科学の諸知識を適切に生かして地域社会や国際社会に貢献するための総合的実践力と協調的コミュニケーション力の完成を目指します。

2. 目的・目標に応じた方法による教育の実施

- (1) 人文学科の多様な専門領域に関する知識・技能を育むため、授業科目を三領域に区分して年次配置を行うとともに、学生に対してカリキュラム・マップを呈示することにより、卒業までの履修期間における体系的効果的な学修を促す教育を行います。
- (2) 地域社会や国際社会に貢献できる市民を育成するため、学際的実践的な知識・能力を習得できる科目群を配置し、学生の自主的な学修を促す教育を行います。

3. 厳格な成績評価の実現

評価の客観性及び厳格性を確保するため、明確な成績評価方法と基準を策定するとともに、学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し、当該基準に基づき厳格な評価を行います

入学者の受入れに関する方針

(<https://www.kagoshima-u.ac.jp/exam/RO3-ippan.pdf>)

(概要)

求める人材像

- (1) 日本を含む世界各地の文化・歴史・環境や人間の心と行動について学ぶ強い意欲を持つ人
- (2) 学習する上で必要となる言語能力や思考力、および基礎的学力を備えている人
- (3) 批判的分析力を身につけている人
- (4) 社会や歴史、思想、文化、環境、科学に関する基礎知識を幅広く習得している人
- (5) 事象を論理的に考察し数理的に処理する能力を備えている人

<p>学部等名 教育学部（学校教育教員養成課程）</p>
<p>教育研究上の目的 (https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/kyouikukenyuuujounomokuteki_gakubu.pdf) </p>
<p>(概要)</p> <p>現実の教育課題の解決はもとより、現在そして未来の「教育」に貢献できる優れた人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (https://www.kagoshima-u.ac.jp/education/fc63b2ca76042acd77ab94a982225a723b9967c4.pdf) </p>
<p>(概要)</p> <p>鹿児島大学教育学部は、全学の学位授与の方針及び教育学部の教育目標に鑑み、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育に関する明確な課題意識のもと、理論と実践を結びつけた主体的な学修を展開することができる能力 2. 教育に関する豊かな知識とともに、各分野の専門的知識を修得し、教育実践に活用できる能力 3. 教育活動において求められる高度な専門的技能と確かな実践力、豊かな人間性と倫理観・コミュニケーション力を有し、地域の教育に貢献できる能力 4. 教育に関する多様な現代的諸課題について、幅広い視座から考察するとともに、将来の課題の発見・探究・解決を志向し続けることができる能力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (https://www.kagoshima-u.ac.jp/education/fc63b2ca76042acd77ab94a982225a723b9967c4.pdf) </p>
<p>(概要)</p> <p>鹿児島大学教育学部は、ディプロマ・ポリシーを実行、達成するために、以下のような方針でカリキュラムを編成、実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初年次から卒業まで系統性のある教育課程の編成 <ol style="list-style-type: none"> ① 学士課程の到達目標の実現に向けて、共通教育から卒業論文に至るまで、豊かな人間性と倫理観及び論理的思考力を育む専門的かつ体系的なカリキュラムを編成します。 ② 教育現場において各専門分野の専門性を活かして行動できるよう、多様な演習科目を配置します。 ③ 教育に関する諸課題を幅広く考察して自ら発見・探究・解決する能

力や実践的指導力，コミュニケーション力を育成するために，実践的科目群を配置します。

2. 目的・目標に応じた方法による教育の実施

学位授与の方針に掲げる能力を育成するために、各科目の目的・目標に応じた方法による教育活動を行います。

3. 厳格な成績評価の実現

各科目において教育・学修目標と評価基準を明確に示し、厳格な成績評価を行います。

入学者の受入れに関する方針

(<https://www.kagoshima-u.ac.jp/exam/RO3-ippan.pdf>)

(概要)

求める人材像

「学校教育を取り巻く諸課題に対して、理論的かつ実践的に探究することのできる高度な専門性と豊かな人間性を備えた教育者」の育成を目的としています。このようなことから、次のような人を求めています。

- (1) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校や特別支援学校等の教員になりたいという志望が強く明確な人
- (2) 入学後に修める専門的な知識・技能を身につけるのに必要とされる基礎的な能力を備えている人
- (3) 教員になるための専門的な学習や実習等に積極的に取り組む意欲が旺盛な人
- (4) 児童・生徒や周囲の人々とのコミュニケーションを豊かに保とうとする意欲をもつ人
- (5) 自分の人間性を高めるために、たゆまず持続的に努力する人

学部等名 理学部理学科
教育研究上の目的 (https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/kyouikukenyuuounomokuteki_gakubu.pdf)
(概要) 自然に潜む真理を探究し、物事の原理を基礎から理解し、「理学」を楽しめる学生を育成することを目的とする。 また、本学部の人材養成の目標については、次のとおり定める。 (1) 創造的で指導的な役割を担う専門的職業人として活躍できる人材を養成する。 (2) 未知の課題に挑戦する研究者・技術者として活躍できる高度な研究能力を有する人材を養成する。
卒業の認定に関する方針 (https://sci-kagoshima-univ.jp/about/)
(概要) 全学の学位授与の方針及び理学部の教育目標に鑑み、以下の能力を身に付け、所定の単位を修得した者に学士の学位を授与します。 1. 理学分野の諸課題に対して、高い倫理観を持って、グローバルな視点から多面的・俯瞰的に考える能力 2. 理学的視点からの調査力・分析力及び課題発見能力 3. 専門分野の知識・学力と幅広い知識に基づく柔軟な理学的発想力（シーズからの発想力）を備え、自律的で実践的な課題解決能力 4. コミュニケーション能力を備え、専門分野以外を含め他者と協働する能力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (https://sci-kagoshima-univ.jp/about/)
(概要) 学位授与の方針に掲げる能力を備えた人材を育成するために、以下に示す方針に基づいて、教育課程（カリキュラム）を編成します。 1. 初年次から卒業まで系統性のある教育課程の編成 ①主として初年次教育科目、グローバル教育科目、共用教育科目等を学ぶことにより、グローバルな視点から俯瞰的に考えるための幅広い教養と国際感覚を身に付けます。 ②理学部共通科目等を学ぶことにより、理学における基礎知識を分野横断的に修得し、理学分野の諸課題に対する幅広い知識と多面的に考える力を身に付けます。 ③各プログラムが開講する専門科目等を学ぶことにより、各専門分野における高度な知識や思考力、実験法を修得し、理学的視点からの調査力・分析力及び課題発見能力を身に付けます。

④各プログラムが開講する特別研究、特別演習、論文講読を通じて、自律的で実践的な課題解決能力と柔軟な理学的発想力を養い、高い倫理観、コミュニケーション能力、及び他者と協働する能力を身に付けます。

⑤資格科目等を学ぶことにより、教員や学芸員などの資格が取得できます。

2. 目的・目標に応じた方法による教育の実施

学位授与の方針に掲げる能力を育成するために、各科目の目的・目標に応じた方法による教育活動を行います。

3. 厳格な成績評価の実現

各科目において教育・学修目標と評価基準を明確に示し、厳格な成績評価を行います。

入学者の受入れに関する方針

(<https://www.kagoshima-u.ac.jp/exam/RO3-ippan.pdf>)

(概要)

求める人材像

- (1) 自然科学に関する基礎的な知識と理解力を備えており、数学と理科に高い学力を有する人
- (2) 課題の発見と解決に積極的に取り組み、知的好奇心や探究心の旺盛な人
- (3) 広い学問的視野と適応性を兼ね備えて、自然と調和の取れた科学の発展に貢献できる人

学部等名 医学部医学科
教育研究上の目的 (https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/kyouikukenyuuuounomokuteki_gakubu.pdf) (概要) <p>全人的医療を実践しうる医療人の育成並びに独創的研究を行える研究者及び優れた指導者の養成を目的とする。</p> <p>人を尊重し、人と地域社会のため最善の医療を実践する優れた臨床医並びに科学的思考力を有し、生涯学習し、医学、医療及び社会の発展に貢献する医師及び医学研究者の養成を目的とする。</p>
卒業の認定に関する方針 (https://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~med/education-of-medicine/three-policy.html) (概要) <p>学生は卒業時に次の能力を修得していること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医学、医療、それに関連する自然科学、人文・社会科学の知識を修得して、実践に応用することができる（以下の能力を示すことによって、この能力を修得しているとする） <ol style="list-style-type: none"> a. 知識を実践に応用することができる b. 学問大系、専門領域を超えて、幅広い知識を医学、医療に活用することができる c. 必要とする最新の情報を収集し、適切に選択して利用することができる 2. 基本的臨床能力を有し、患者中心のチーム医療を熱意と責任をもって安全に実践できる <ol style="list-style-type: none"> a. 常に利他的な態度を示し、心理社会背景を含む患者の抱える問題を包括的に理解して支援し、患者を尊重した医療の推進ができる b. 基本的診療手技とコミュニケーション技能を身につけ、患者ならびにその家族と良好な対人関係を築いて診療を行うことができる <ol style="list-style-type: none"> i. 患者から情報収集を行い、データを解釈して頻度の高い疾患の診断を行い、診断方針を計画することができる ii. 基本的検査・治療手技を実施することができる iii. 診療録の記載と症例提示を実施し、医療情報を適切に取り扱うことができる iv. インフォームドコンセントに基づく患者自らによる意思決定の支援と患者教育を行うことができる c. 医療チームのメンバーと互いを尊重したコミュニケーションを図り、チームの機能を高めるためにリーダー及びメンバーとしての自分の役割を果たして、安全な医療を実践できる d. 医療の実践に必要な知識や技能を修得することが医師としての責務であることを理解し、実行できる

3. 高い倫理観と社会性に基づいて、地域及び国際社会における自分の役割を認識することができる
 - a. 地域医療に参加し、基本的な初期診療を実施できる
 - b. 離島・へき地を含む地域医療、先端医療、保健・福祉制度のそれぞれの機能と連携を理解し、医師の果たす役割を自覚し、行動できる
 - c. 医療資源の適切な分配をふまえた倫理的な最善の医療の選択ができる
 - d. 個人、家族、地域、文化圏、国際社会における疾患と医療の多様性を理解し、最新の情報に基づく適切な対応ができる
4. 基礎・臨床・社会医学における研究を体験し、研究の重要性と必要性を認識する
 - a. 課題を発見して、論理的、批判的に考え、探求し、問題解決する自己主導型学習を行うことができる
 - b. 研究の計画と実施、結果の解析とまとめ、発表、倫理的対応を理解する

教育課程の編成及び実施に関する方針

(<https://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~med/education-of-medicine/three-policy.html>)

(概要)

1. 優れた問題解決能力を有した臨床医および医学研究者の育成をはかるために、統合型カリキュラムによる段階的、一貫教育を行います。
2. 鹿児島県の医療圏の特徴を生かし、地域医療を教育の様々な段階で取り入れた教育プログラムで学習します。
3. 講義、実習に加え、入学時より少人数での統合型学習、自己主導型学習により、学生は課題の発見、情報の収集、知識の応用と科学的な思考による問題解決を学びます。
4. 学生は患者とのふれあい、シミュレーションを用いた臨床技能の実習、大学病院や離島を含む様々な医療現場での体験、医療者の一員として行動する臨床実習を通して、実践的応用力と医師に求められている人間性や責任感を修得します。
5. 臨床医、研究者を問わず必要である論理的な思考に基づく問題解決能力、課題探究心を育むべく研究体験も行います。
6. 各段階で学習成果を評価して学習を支援し、実技試験を含む総合的評価を行います。

入学者の受入れに関する方針

(<https://www.kagoshima-u.ac.jp/exam/RO3-ippan.pdf>)

(概要)

学科の求める人材像

高校で学ぶ理科，数学，外国語，国語，社会の基礎学力と学校と社会生活の中で養った資質として，

- (1) 自然界や人間社会についての幅広い基礎学力と問題解決力
- (2) 医療や医学，生命科学などに対する関心
- (3) 地域や国際社会への関心と社会に貢献する意欲
- (4) 互いを尊重し，思いやりいたわる心
- (5) 話を正確に聞き，自分の意見を論理的に伝える能力
- (6) 学習意欲があり，自主的に学習する力と習慣

を備えている人

学部等名 医学部保健学科
教育研究上の目的 (https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/kyouikukenyuuujounomokuteki_gakubu.pdf) (概要) <p>全人的医療を実践しうる医療人の育成並びに独創的研究を行える研究者及び優れた指導者の養成を目的とする。</p> <p>豊かな倫理性を背景として、科学的思考力と他者に対する想像力に富み、患者と地域社会に貢献できる医療を実践するための思考力、判断力及び積極的実行力を有する看護師、保健師、助産師、理学療法士及び作業療法士の養成を目的とする。</p>
卒業の認定に関する方針 (https://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~health/policy.html) (概要) <p>学生は卒業時に次の能力を修得していること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな人間性とグローバルな視野を持ち、何事にも率先して取り組む積極性とリーダーシップを有している 2. 医療・保健・福祉のニーズに柔軟に対応でき、地域に貢献できる能力を有している 3. 看護学・理学療法学・作業療法学における専門的な知識・技術と態度を身につけている 4. 医療チームの一員に求められるコミュニケーション能力を有し、他の職種と協力して問題を解決することができる
教育課程の編成及び実施に関する方針 (https://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~health/policy.html) (概要) <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな人間社会性、医療人に必要な倫理観や国際的視野を養い、自主性と創造性に富んだ人材を育成するために、共通教育科目と専門科目を効果的に配置します。 2. 医療に対する分な知識と秀れた技術を修得させるため、基礎から応用・発展的な科目を配置します。 3. 医療の諸課題柔軟に対応できる思考力と的確な判断力を養うための科目を配置します。 4. チーム医療を践するうえで必要な協調性やコミュニケーション能力等を涵養する科目を設けます。
入学者の受入れに関する方針 (https://www.kagoshima-u.ac.jp/exam/R03-ippan.pdf)

(概要)

学科の求める人材像

- (1) 人を愛し、病める人のいたみを理解できる人
- (2) チームワークに必要な協調性をもつ人
- (3) 保健や医療に深い関心をもち、医療専門職への強い意欲のある人
- (4) 保健学を学ぶために、幅広い基礎学力を有する人
- (5) 探究心があり、物事に積極的に取り組むことができる人
- (6) 地域社会や国際社会に関心のもてる人

学部等名 歯学部歯学科
<p>教育研究上の目的 https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/kyouikukenyuuujounomokuteki_gakubu.pdf</p> <p>(概要) 「歯科医療人である前に良識豊かな人間であれ」という理念のもとに、次に掲げる教育目標を達成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 全人的歯科医療を实践しうる歯学分野における幅広い知識と創造性に富む歯科医師及び歯科医学教育者・研究者の育成 (2) 地域医療に貢献しうる幅広い識見と人間性豊かな使命感にあふれる歯科医師及び歯科医学教育者・研究者の育成 (3) 国際社会においても卓越した貢献をなしうる歯科医師及び歯科医学教育者・研究者の育成
<p>卒業の認定に関する方針 http://w3.hal.kagoshima-u.ac.jp/admission/career/goal.html</p> <p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 良識豊かな人間性を身につけ、患者、患者家族、医療チーム構成員を尊重し、適切なコミュニケーション能力を持って医療を实践するとともに、歯科医師としての職責を認識することができる能力 2. 歯科を中心とした医療の基盤を構成する基礎、臨床の各領域とともに、自然科学、人文社会学分野を含めた幅広い知識を有し、必要に応じて応用することができる能力 3. 全身的、精神的、社会的状況に配慮した、安全で効果的かつ合理的な患者中心の歯科医療を实践することができる能力 4. 離島を含めた地域および国際社会における歯科医療の多様性を理解し、地域、国際社会において幅広く活動する素養を身につけるとともに、歯科医学、医療の社会的役割を理解することができる能力 5. 生涯にわたって自己研鑽に取り組むための基礎となる、自らの行動を論理的、批判的に振り返ることができる能力 6. 歯科医学における研究の重要性を認識し、各種情報を正しく評価するとともに、創造性に富む素養を身につけて、新たな情報を生み出すことができる能力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 http://w3.hal.kagoshima-u.ac.jp/admission/curriculum/idea.html</p> <p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初年次から卒業まで系統性のある教育課程の編成 <ol style="list-style-type: none"> ①卒業時の到達目標を達成するために、統合的かつ段階的な一貫教育を構築します。 ②地域および国際社会における多様な医療ニーズに対応できる能力の修得をめざし、学習者主体の能動的な教育を重視します。 ③医療人の基礎となるコミュニケーション能力、倫理観、プロフェッ

シヨナリズムに関する教育を学年横断的に実施します。

④医療者に求められる臨床能力の修得をめざし、基礎と臨床を統合した教育を実施します。

⑤鹿児島県の独自性を活かした地域志向教育、地域および離島医療教育を学年横断的に実施します。

⑥論理的思考に基づく問題解決能力、科学的探究心を醸成します。

2. 目的・目標に応じた方法による教育の実施

学位授与の方針に掲げる能力を育成するために、各科目の目的・目標に応じた方法による教育活動を行います。

3. 厳格な成績評価の実現

各科目において教育・学修目標と評価基準を明確に示し、厳格な成績評価を行います。

入学者の受入れに関する方針

(<https://www.kagoshima-u.ac.jp/exam/RO3-ippan.pdf>)

(概要)

求める人材像

- (1) 生命への強い関心，人間としてのモラル，奉仕精神にあふれる人
- (2) 歯科医学の知識や技能を十分理解・修得できる基礎学力のある人
- (3) 歯科医学に興味を持ち，科学的探究心の豊かな人
- (4) 幅広い視野と柔軟な感性を持ち，常に考え行動する資質のある人
- (5) 歯科医療人として社会に貢献しようとする強い意欲を持つ人

学部等名 工学部先進工学科
教育研究上の目的 (https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/kyouikukenkuyujounomokuteki_gakubu.pdf)
(概要) 工学を支える新技術を創成でき、国際的視野を持った技術者の育成機関となる努力を続け、広い視野と工学的デザイン能力を培う教育を推進し、科学技術の発展に寄与するための研究活動に取り組むこと、さらに、地域社会との連携に励み、世界に開かれた学部であることを目的とする。 学部の目的を達成するため、次に掲げる人材の育成を目標とする。 (1) 倫理観、価値観に対する理解を深め、多様な文化・社会・自然の係わり・工学関連分野全体を総合的に把握し、専門領域を超える諸課題に挑戦することができる能力を有する人材 (2) 工学基盤及び各専門分野における体系的学修、分野を横断する学際的学修により、知識活用力、論理的思考力、課題探究力、問題解決力、情報発信力、コミュニケーション力、生涯学習力、創造的思考力、就業力等を、地域社会及び国際社会において発揮できる能力を有する人材 先進工学科の人材育成の目的について、次の各号に定める。 (1) 専門分野の基礎知識を体系的に修得すると共に、複数分野の融合領域を把握することによる、イノベーション創出のための基盤的な理解力、創造的試行力を有する人材を育成する。 (2) 高度情報化社会を生き抜くための情報基盤力を有する人材を育成する。 (3) 工学分野全体を把握し、幅広い視野で諸課題に挑戦し問題解決する能力を有する人材を育成する。 (4) 技術者の使命感と倫理観を持って地域社会及び国際社会において活躍し続けるためのコミュニケーション力、デザイン力、実社会における課題解決能力を有する人材を育成する。
卒業の認定に関する方針 (https://www.eng.kagoshima-u.ac.jp/faculty/goal/policy_adv/)
(概要) 鹿児島大学工学部は、全学の学位授与の方針及び工学部の教育目標に鑑み、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学位を授与します。 1. 倫理観、価値観に対する理解を深め、多様な文化・社会・自然の係わり・工学関連分野全体を総合的に把握し、専門領域を超える諸課題に挑戦することができる能力 2. 工学基盤、及び各専門分野における体系的学修、分野を横断する学際的学修により、知識活用力、論理的思考力、課題探究力、問題解決力、情報発信力、コミュニケーション力、生涯学習力、創造的思考力、就業力等を、地域社会及び国際社会において発揮できる能力 先進工学科は、全学と工学部の学位授与の方針及び先進工学科の教育目標に鑑み、以下の能力を備え、所定の単位を修得したものに学士の学位を授与します。

1. 技術者の使命感と倫理観を持って工学の諸課題に挑戦する能力
2. 工学分野全体を把握し、幅広い視野で諸課題を解決する能力
3. 専門分野の基礎知識を体系的に修得することによる基礎的学力、論理的思考力
4. 複数分野の融合領域を修得することによる、イノベーション創出のための先進性を培う創造的思考力
5. 高度情報化社会を生き抜くための情報基盤力
6. 地域社会及び国際社会において活躍し続けるためのコミュニケーション力、デザイン力、生涯学習力

教育課程の編成及び実施に関する方針

(https://www.eng.kagoshima-u.ac.jp/faculty/goal/policy_adv/)

(概要)

工学部は、「自主自律と進取の精神を有する学士（工学）」を育成するため、教育内容の順次性・系統性に配慮した体系的編成の学位プログラムを構成する教育課程(教養教育及び専門教育)において、以下のような方針による質の高い教育を、高等教育における単位制度の仕組みに基づき実践します。

1. 初年次から卒業まで系統性のある教育課程の編成

- ①幅広い視野と多様な価値観を育み、進取の精神を有する技術者・研究者として豊かな人間性と倫理観を得させるため、教養教育を実施します。
- ②高等学校教育からの連続性に留意しつつ、各専門分野の基礎から応用までの理論・技能を修得し発展させるための汎用的な専門能力を得させるため、分野基盤教育、専門教育を実施します。
- ③工学知識・技術を発展させ新しい価値を創造する学際的な専門能力を得させるため、複数の専門分野の融合領域を理解するための専門教育を実施します。
- ④学修した知識・技能・学習方法等を総合的に活用し、諸課題の解決に応用する能力を育成するため、工学分野全体を把握させる教育、研究活動を礎とする教育を展開します。
- ⑤高度情報化社会を生き抜くための情報基盤力を修得するため、基盤情報教育を実施します。
- ⑥地域社会及び国際社会において進取の気風をもって活躍できるよう、コミュニケーション能力、生涯学習力、創造的思考力、就業力を向上させる教育を推進します。

2. 目的・目標に応じた方法による教育の実施

学位授与の方針に掲げる能力を育成するために、各科目の目的・目標に応じた方法による教育活動を行います。

3. 厳格な成績評価の実現

各科目において教育・学修目標と評価基準を明確に示し、厳格な成績評価を行います。

先進工学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を備えた人材を育成するため、次のような教育を実施します。

1. 初年次から卒業まで系統性のある教育課程の編成

- ①幅広い視野と多様な価値観を育み豊かな人間性と倫理観を修得するための教

養教育

- ②各専門分野の基礎から応用までの理論・技能を修得し発展させるための専門分野の基礎・基盤を修得する教育
- ③複数分野の融合教育を推進することにより、イノベーション創出のための基礎的学力、創造的思考力を修得する教育
- ④工学分野全体を把握し、幅広い視野で諸課題に挑戦するための教育
- ⑤高度情報化社会を生き抜くための情報基盤としての数理・データサイエンス基礎力を修得する教育
- ⑥継続的に地域・国際社会で活躍するための就業力、コミュニケーション能力、デザイン力、実社会における課題解決能力を身につける教育

2. 目的・目標に応じた方法による教育の実施

学位授与の方針に掲げる能力を育成するために、各科目の目的・目標に応じた方法による教育活動を行います。

3. 厳格な成績評価の実現

各科目において教育・学修目標と評価基準を明確に示し、厳格な成績評価を行います。

入学者の受入れに関する方針

(<https://www.kagoshima-u.ac.jp/exam/RO3-ippan.pdf>)

(概要)

求める人材像

工学部は、本学部の教育目標に共感できる次のような人を、国内外から広く求めています。

- 1. 工学部の学位授与の方針を達成できる基礎学力ないしは素養のある人
- 2. 工学の面白さを学びたい、ものづくりに取り組んでみたい、技術開発に挑戦したい等の夢をもつ人
- 3. 自ら考え、主体的に学修する目的意識が明確で、そのための学修意欲が高い人

先進工学科

先進工学科は、本学科の教育目標に共感できる次のような人を、国内外から広く求めています。

- 1. 工学専門分野を修得できる基礎学力を有し、主体的に学修する意欲がある人
- 2. イノベーション創出のための技術開発に挑戦したいという情熱を持っている人
- 3. 工学のものづくりに興味を持ち、創造力、技術力で地域社会や国際社会に貢献する夢をもつ人
- 4. 自ら考え、主体的に学修する目的意識を有する人

学部等名 工学部建築学科
教育研究上の目的 (https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/kyouikukenyuuuounomokuteki_gakubu.pdf) (概要) 工学を支える新技術を創成でき、国際的視野を持った技術者の育成機関となる努力を続け、広い視野と工学的デザイン能力を培う教育を推進し、科学技術の発展に寄与するための研究活動に取り組むこと、さらに、地域社会との連携に励み、世界に開かれた学部であることを目的とする。 学部の目的を達成するため、次に掲げる人材の育成を目標とする。 (1) 倫理観、価値観に対する理解を深め、多様な文化・社会・自然の係わり・工学関連分野全体を総合的に把握し、専門領域を超える諸課題に挑戦することができる能力を有する人材 (2) 工学基盤及び各専門分野における体系的学修、分野を横断する学際的学修により、知識活用力、論理的思考力、課題探究力、問題解決力、情報発信力、コミュニケーション力、生涯学習力、創造的思考力、就業力等を、地域社会及び国際社会において発揮できる能力を有する人材 建築学科の人材育成の目的について、次の各号に定める。 (1) 人類の建築文化の遺産を継承し、地球環境の保全に配慮しながら、建築空間と生活環境の創造に貢献できる人材を育成する。
卒業の認定に関する方針 (https://www.eng.kagoshima-u.ac.jp/faculty/goal/policy_aae/) (概要) 鹿児島大学工学部は、全学の学位授与の方針及び工学部の教育目標に鑑み、以下の能力を身につけ、所定の単位を取得した者に学位を授与します。 1. 倫理観、価値観に対する理解を深め、多様な文化・社会・自然の係わり・工学関係分野全体を総合的に把握し、専門領域を超える諸課題に挑戦することができる能力 2. 工学基盤、及び各専門分野における体系的学修、分野を横断する学際的学修により、知識活用力、論理的思考力、課題探究力、問題解決力、情報発信力、コミュニケーション力、生涯学習力、創造的思考力、就業力等を、地域社会及び国際社会において発揮できる能力 建築学科では、全学の学位授与の方針及び工学部の教育目標に鑑み、当学科のカリキュラムに沿って各教育目標を達成し、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士の学位を授与します。 1. 建築技術者としての使命感と倫理観を持ち、幅広い視野に立って多面的に建築を考えることができる能力 2. 建築における基本的な考え方を理解し、工学技術と人文社会科学・芸術の知識を応用することができる総合力 3. 新しい建築文化や建築技術の創造へつながる自主的・継続的学習能力及びエンジニアリング・デザイン能力（必ずしも正解の無い複合的な課題に対して、創造的かつ効果的な解決策を提示できる能力） 4. 地域社会及び国際社会の建築に関する場で活動できる情報発信力、コミ

コミュニケーション力、及びチームで仕事をするができる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針

(https://www.eng.kagoshima-u.ac.jp/faculty/goal/policy_eee/)

(概要)

工学部は、「自主自律と進取の精神を有する学士（工学）」を育成するため、教育内容の順次性・系統性に配慮した体系的編成の学位プログラムを構成する教育課程(教養教育及び専門教育)において、以下のような方針による質の高い教育を、高等教育における単位制度の仕組みに基づき実践します。

1. 初年次から卒業まで系統性のある教育課程の編成

- ①幅広い視野と多様な価値観を育み、進取の精神を有する技術者・研究者として豊かな人間性と倫理観を得させるため、教養教育を実施します。
- ②高等学校教育からの連続性に留意しつつ、各専門分野の基礎から応用までの理論・技能を修得し発展させるための汎用的な専門能力を得させるため、分野基盤教育、専門教育を実施します。
- ③工学知識・技術を発展させ新しい価値を創造する学際的な専門能力を得させるため、複数の専門分野の融合領域を理解するための専門教育を実施します。
- ④学修した知識・技能・学習方法等を総合的に活用し、諸課題の解決に応用する能力を育成するため、工学分野全体を把握させる教育、研究活動を礎とする教育を展開します。
- ⑤高度情報化社会を生き抜くための情報基盤力を修得するため、基盤情報教育を実施します。
- ⑥地域社会及び国際社会において進取の気風をもって活躍できるよう、コミュニケーション能力、生涯学習力、創造的思考力、就業力を向上させる教育を推進します。

2. 目的・目標に応じた方法による教育の実施

学位授与の方針に掲げる能力を育成するために、各科目の目的・目標に応じた方法による教育活動を行います。

3. 厳格な成績評価の実現

各科目において教育・学修目標と評価基準を明確に示し、厳格な成績評価を行います。

ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を備えた人材を育成するため、次のような科目を配置します。また、カリキュラムマップを別表に示します。

1. 初年次から卒業まで系統性のある教育課程の編成

- ①建築技術者としての使命感と倫理観を持ち、幅広い視野に立って多面的に建築を考えることができる能力を養成する科目を実施
- ②建築分野の基礎から応用までの理論・技能を修得し発展させるための汎用的な専門能力を得させるため基盤教育、専門教育を実施
- ③建築における基本的な考え方を理解し、工学技術と人文社会科学・芸術の知識を応用することができる総合力を養成する科目を実施
- ④新しい建築文化や建築技術の創造へつながる自主的・継続的学習能力及びエンジニアリング・デザイン能力（必ずしも正解の無い複合的な課題に対して、創造的かつ効果的な解決策を提示できる能力）を養成する科目を実施

2. 目的・目標に応じた方法による教育の実施
学位授与の方針に掲げる能力を育成するために、各科目の目的・目標に応じた方法による教育活動を行います。
3. 厳格な成績評価の実現
各科目において教育・学修目標と評価基準を明確に示し、厳格な成績評価を行います。

入学者の受入れに関する方針

(<https://www.kagoshima-u.ac.jp/exam/RO3-ippan.pdf>)

(概要)

求める人材像

工学部は、本学部の教育目標に共感できる次のような人を、国内外から広く求めています。

1. 工学部の学位授与の方針を達成できる基礎学力ないしは素養のある人
2. 工学の面白さを学びたい、ものづくりに取り組んでみたい、技術開発に挑戦したい等の夢をもつ人
3. 自ら考え、主体的に学修する目的意識が明確で、そのための学修意欲が高い人

建築の役割は、個々の建物から都市までを対象として、学術と技術と芸術の3つの面を融合して、人々に快適な空間を創造することです。建築学科では、国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語に関する基礎学力を有し、建築と科学及び芸術と社会の広い分野に関心を持つ次のような学生を求めています。

1. 建築を造りたいという情熱を持っている人
2. 建築に関する自然科学・人文社会科学・芸術の分野に幅広く関心を持ち、自らの強みを活かし主体的に学修する意欲がある人
3. 建築と人間や社会、環境との関係に興味がある人
4. 建築デザインの分野で素養を活かしたいと考えている人
5. 安全で美しく快適な建築を造る技術に関心のある人
6. 建築士などの資格を取得し、地域社会や国際社会に貢献する夢をもつ人

学部等名 農学部農業生産科学科
教育研究上の目的 (https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/kyouikukenkanyuujounomokuteki_gakubu.pdf)
<p>(概要)</p> <p>南九州という多様な自然環境と生物資源に恵まれた地域の特性を活かし、フィールド等での実践的な教育を重視し、豊かな人間性と広い視野、応用・実践能力、国際性を備えた、農林業、食品産業等及び食住農関連分野の技術者・指導者などを育成するために、農業生産科学科、食料生命科学科及び農林環境科学科を置き、その設置目的を定める</p> <p>農業生産における動植物の育種、栽培や飼養管理、農畜産物の利活用に関する知識と技術を身につけ、高品質な食材の安定供給や付加価値の高い農畜産物の創出に貢献できる人材を育成するために、次の教育コースを置く。</p> <p>○応用植物科学コース 東アジアに位置する南国の温暖な気候を活かした農・園芸作物生産のための基礎知識・技術・理論の習得を通して、実践的で応用力を備えた人材を養成するために、多様な栽培方法や病虫害駆除法、また、植物の遺伝的改良について深く学び、専門的知見を向上させる。さらに、地球温暖化等の環境の変化に起因する様々な農業生産上の問題を解決するために、指導的役割を果たし得る広い視野と国際性を持った人材を養成する。</p> <p>○畜産科学コース 日本有数の畜産地帯である南九州において、家畜の繁殖、改良、行動・飼養管理、生態機構、栄養生理、畜産物利用等に関する教育を行い、効率的で持続可能な家畜の生産から安全・安心で付加価値の高い畜産物の開発に関する知識と技術を備えつつ、畜産学の進歩、地域農業の振興、国産畜産物の競争力強化に貢献できる人材を育成する。</p> <p>○食料農業経済学コース グローバル化が進む食料・農業・農村の問題について、社会科学的な手法による実践的な教育を行い、食料・農業問題、地域振興及びアグリビジネスに関する高度な知識を備えた地域リーダー、政策立案者、アグリビジネス従事者を育成する。食料・農業・農村政策、農産物貿易、農産物流通、アグリビジネス、農業経営管理、食の安全、及び農村環境保全などについて社会科学的な方法で教育する。</p>
卒業の認定に関する方針 (http://ace1.agri.kagoshima-u.ac.jp/gakka/seisan/)

(概要)

- (1) 農作物・園芸作物の栽培や家畜の管理に関する専門的知識と技術を習得している。
- (2) 植物や動物における生命現象に関する専門知識と解析技術を習得している。
- (3) 食料の流通や農業・農村の実態を十分に理解しているとともに問題提起ができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(<http://ace1.agri.kagoshima-u.ac.jp/gakka/seisan/>)

(概要)

教育目標を達成させるために、講義によって農作物や家畜の生産、管理、利用、流通に関連した分野の学問と知識を習得させるとともに、実験、実習、演習などによってより実践的な力を養うための教育を行う。その概要は以下の通りである。

- (1) 2年次に各教育コースに配属し、専門基礎科目を必修科目として課すとともに基礎的な実験、実習、演習を課して技術を習得させる科目を配置する。
- (2) 3年次に各研究室に配属し、教育コースにおける専門科目を課すとともに応用的な実験、実習、演習を課す科目を配置する。
- (3) 4年次には主に自ら企画・立案した卒業論文テーマについて研究を行い、研究成果として取りまとめて発表する科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針

(<https://www.kagoshima-u.ac.jp/exam/RO3-ippan.pdf>)

(概要)

農業生産科学科の求める人材像

- (1) 英語，理科，数学の十分な基礎学力を備えている人
- (2) 植物の栽培，動物の飼育，生物・化学実験もしくは調査に意欲のある人
- (3) 農畜産物の生産・流通・消費に関心を持つ人
- (4) 農村地域や農村社会に関心を持つ人
- (5) 農作物や家畜の生産に関わる新技術やバイオテクノロジーに関心を持つ人
- (6) 海外の農畜産業や食料資源に関心を持つ人

<p>学部等名 農学部食料生命科学科</p>
<p>教育研究上の目的 (https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/kyouikukenkuyujounomokuteki_gakubu.pdf) </p>
<p>(概要)</p> <p>南九州という多様な自然環境と生物資源に恵まれた地域の特性を活かし、フィールド等での実践的な教育を重視し、豊かな人間性と広い視野、</p> <p>応用・実践能力、国際性を備えた、農林業、食品産業等及び食住農関連分野の技術者・指導者などを育成するために、農業生産科学科、食料生命科学科及び農林環境科学科を置き、その設置目的を定める。</p> <p>食品の安全確保、食品の栄養生理・機能と健康との関わり、微生物をはじめ生物機能の利用に関する知識と技術を身につけ、食に係る分野及び地域産業としての特色のある焼酎・発酵食品産業で活躍できる人材を育成するために、次の教育コースを置く。</p> <p>○食品機能科学コース 「食・健康・豊かさ」の視点から、生命現象の理解、生物機能の利用、食品の栄養生理・機能の解明、機能性食品の開発に関わる基礎と応用の教育を行い、多様化するバイオサイエンスやフードサイエンスの新時代に適応できる人材を養成する。</p> <p>○食環境制御科学コース 人間にとって有用かつ健全な農産物の生産から消費に至る供給プロセスにおける食の安全確保を目指して生産環境、栽培過程、保蔵・加工・流通、及び品質・安全に関する科学的な知識と技術を有し、食料生産、食品加工・製造、食品衛生管理、農業資材開発などの分野で活躍できる人材を養成する。</p> <p>○焼酎発酵・微生物科学コース 焼酎などの伝統的発酵食品及びさまざまな微生物に関連した基礎から応用にわたる広範囲な知識と技術の習得により、発酵食品をはじめとする微生物の利活用分野における技術を継承し、かつ新技術開発のリーダーとなる人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (http://ace1.agri.kagoshima-u.ac.jp/gakka/seimei/) </p>
<p>(概要)</p> <p>(1) 幅広い教養知識を有し、食品機能科学、食環境制御科学、焼酎発酵・微生物科学に関する専門的知識を習得している。</p> <p>(2) 食品機能科学、食環境制御科学および焼酎発酵・微生物科学に関する課題に取り組むための方法や技術を習得している。</p> <p>(3) 食品・生命科学関連産業に関わる社会における問題の解決に取り組む能力を有している。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p>

(<http://ace1.agri.kagoshima-u.ac.jp/gakka/seimei/>)

(概要)

教育目標を達成するために、食品機能科学、食環境制御科学、焼酎発酵・微生物科学に関連した知識を習得させるとともに、実験、実習および演習等によって実践的な力を養うための教育を行う。その概要は以下のとおりである。

- (1) 1, 2年次には、有機化学、無機化学、生物化学、食品化学、応用微生物学など学科共通の基礎的専門科目を配置するとともに、初歩的な技能を習得させるための基礎的な実験科目を配置する。
- (2) 3年次に各教育コースに配属し、より専門性の高い知識と技能を習得させるために、教育コースのカリキュラムポリシーに基づく専門的な科目と実験・実習・演習科目を配置する。
- (3) 4年次には指導教員のもとで専門的な研究テーマに取り組み、研究成果をまとめて発表し卒業論文を作成させる科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針

(<https://www.kagoshima-u.ac.jp/exam/RO3-ippan.pdf>)

(概要)

食料生命科学科の求める人材像

- (1) 化学と生物学の十分な基礎学力を備えている人
- (2) 物事に自発的に取り組み、実験や研究に意欲のある人
- (3) 動植物・微生物の生命現象や食の安全、食品の機能性、発酵食品などに関心のある人

学部等名 農学部農林環境科学科
<p>教育研究上の目的 https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/kyouikukenyuuujounomokuteki_gakubu.pdf</p> <p>(概要)</p> <p>南九州という多様な自然環境と生物資源に恵まれた地域の特性を活かし、フィールド等での実践的な教育を重視し、豊かな人間性と広い視野、応用・実践能力、国際性を備えた、農林業、食品産業等及び食住農関連分野の技術者・指導者などを育成するために、農業生産科学科、食料生命科学科及び農林環境科学科を置き、その設置目的を定める。</p> <p>地域農林資源の利活用及び森林や農地の保全と防災に関する知識と技術を身につけ、自然と調和した農林業生産の基盤づくり及び農山村の振興や生活環境の維持と創出に貢献できる人材を育成するために、次の教育コースを置く。</p> <p>○森林科学コース 暖帯林から亜熱帯林の森林生態系に関する理解を深め、国内有数の木材供給基地である南九州の森林資源の循環的利用と森林や山地を中心とする国土保全のための計画・管理に関する知識と能力を持った人材を育成する。</p> <p>○地域環境システム学コース 地域資源の活用や管理、地域環境の整備や修復及び地域防災に関する情報の発信等に関する基礎的な知識と論理を修得し、農業生産や豊かな地域環境創出に関わる技術をもった人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 http://ace1.agri.kagoshima-u.ac.jp/gakka/kankyo/</p> <p>(概要)</p> <p>(1) 幅広い学術的教養を身につけている。</p> <p>(2) 農林環境科学分野の専門的知識や技術を有し、専門分野に関するさまざまな課題に対応する方法論を習得している。</p> <p>(3) 農林環境科学分野の研究課題に取り組み、その成果を卒業論文としてまとめる能力を有している。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 http://ace1.agri.kagoshima-u.ac.jp/gakka/kankyo/</p> <p>(概要)</p> <p>教育目標を達成するために、森林科学および地域環境システム学の教育コース別に配置された学問と知識を修得させるとともに、実験、実習、演習などによって実践的な力を養うための教育を行う。その概要は以下の通りである。</p>

- (1) 1、2年次では、専門の講義を受ける基礎の能力を養成するために、共通教育における幅広い教養および理数系の科目を配置する。
- (2) 2年次から各教育コースに配属し、専門的知識や技術を習得するために専門科目の講義、実験、実習および演習の科目を配置する。
- (3) 4年次には卒業論文テーマに取り組み、研究成果を取りまとめて発表する科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針

(<https://www.kagoshima-u.ac.jp/exam/RO3-ippan.pdf>)

(概要)

農林環境科学科の求める人材像

- (1) 数学，物理，化学，生物，地学，地理歴史，公民，外国語の基礎学力を備えている人
- (2) 地域資源を利用した農業や林業の振興，森林や農地といった国土の整備・保全のための勉学に意欲を持つ人

学部等名 水産学部水産学科
教育研究上の目的 (https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/kyouikukenyuuuounomokuteki_gakubu.pdf) (概要) <p>広く知識を授けるとともに深く水産学の学術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって学術文化の向上に寄与する有為な人材を育成することを目的とする。</p> <p>鹿児島から東南アジア・南太平洋を含む水圏をフィールドとして、水産資源の持続的生産とその合理的利用及び水圏環境の保全・管理の分野の専門知識を修得し豊かな世界観と倫理観を備え、グローバル化する産業社会に参画し、地域社会と国際社会に貢献できる進取の精神を持った人材を育成し、社会に送り出すことを目指すものとする。</p>
卒業の認定に関する方針 (http://www.fish.kagoshima-u.ac.jp/aboutus/policy/) (概要) <p>鹿児島大学水産学部は、全学の学位授与の方針及び水産学部の教育目標に鑑み、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・国際両面で資源・環境・食料分野に強い水産技術者に必要な、教養と基本的な知識を体系的に運用できる能力。 2. 水産学の各専門分野における、実践的で高いレベルの知識・技術を運用できる能力。 3. 水産技術者として十分な基礎学力をもち生涯学び続けることができる能力。 4. 水産技術者として必要な英語を運用できる能力。 5. 水産技術者として実務に必要な情報処理ができる能力。 6. 水産技術者として実務に必要なレベルの報告書作成・プレゼンテーション、および問題解決型の業務ができる能力。 7. 水産技術者として倫理観に基づいた必要なレベルの現場対応ができる能力。 8. 水産技術者として適切な倫理観、判断力及び職業観に基づく協働（チームワーク）ができる能力。 9. 水産技術者としての意識と思考力を活用し、地域や国際社会の課題に果敢に取り組むことができる能力。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (http://www.fish.kagoshima-u.ac.jp/aboutus/policy/)

(概要)

鹿児島大学水産学部は、学位授与の方針に掲げる能力を備えた人材を育成するために、以下の通り教育課程を編成・実施します。

1. 初年次から卒業まで系統性のある教育課程の編成

- ①地域・国際両面で、資源・環境・食品分野に強い水産技術者の養成のために必要な、基盤的な知識を修得させる科目群を配置します。
- ②水産業の専門分野に必要な実践的で体系的な知識や技術を高いレベルで習得させるために、以下の分野等別の専門科目群を配置します。
- ③専門的な科目群の内容を理解するとともに、生涯学べるように、基礎的な教育科目群を配置します。
- ④英語コミュニケーションスキルを向上させる科目群を配置します。
- ⑤水産技術者として実務に必要な、情報処理能力を向上させる科目群を配置します。
- ⑥水産技術者として実務に必要な、報告書作成能力やプレゼンテーション能力、問題解決型の仕事をする能力を向上させる科目群を配置します。
- ⑦水産技術者として円滑に社会貢献ができるように、フィールド・産業現場での業務能力、水産業従事者とのコミュニケーション能力の涵養を図る科目群を配置します。
- ⑧水産技術者として円滑に社会貢献ができるように、チームワーク能力、水産技術者としての倫理観と判断力及び職業観の涵養を図る科目群を配置します。
- ⑨水産業での国際社会や地域社会への貢献に対する意識や思考力を向上させる科目群を配置します。
- ⑩水産業の専門分野で円滑に社会貢献ができるように、以下の領域で、職能強化のための科目群を配置します。

2. 目的・目標に応じた方法による教育の実施

学位授与の方針に掲げる能力を育成するために、各科目の目的・目標に応じた方法による教育活動を行います。

3. 厳格な成績評価の実現

各科目において教育・学修目標と評価基準を明確に示し、厳格な成績評価を行います。

入学者の受入れに関する方針

(<https://www.kagoshima-u.ac.jp/exam/RO3-ippan.pdf>)

(概要)

求める人材像

- (1) 海洋環境や水圏の生物に興味を持ち、水産業の基盤である海洋環境や水圏に生息する生物の特性と両者の相互作用についての基礎科学を学び、学校教育や環境教育の現場あるいは海洋環境と生物に関する調査・保全に関わる機関で働きたい人
- (2) 水産資源の生産管理や増養殖に興味を持ち、水産資源とその採捕・管理及び増養殖に関する理論と技術について学び、漁業技術産業、増養殖産業あるいは水産資源の開発・管理や増養殖に係る公的機関で働きたい人
- (3) 水産食品や水産資源の先進利用に興味を持ち、水産資源の食品としての利用と機能性化成品などへの先進的な利用について学び、食品・化学品製造業及び製薬業ならびにそれらの関連分野で働きたい人
- (4) 水産政策や水産物流通に興味を持ち、水産政策と水産物流通・経済に関連する知識と技術について学び、水産流通業や食品産業、水産系公務員、水産系金融、漁業系統機関などで働きたい人
- (5) 水圏環境の保全に興味を持ち、赤潮、有機汚染、有害化学物質汚染（人為的ネガティブインパクト）、水圏環境の保全と修復について学び、環境アセスメントや関連分野及び公的機関で働きたい人
- (6) 水産教員、海技士またはグローバル人材として働くために必要な職業能力を強化し、地域社会に貢献したい人

学部等名 共同獣医学部獣医学科
<p>教育研究上の目的 https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/kyouikukenyuuuounomokuteki_gakubu.pdf</p> <p>(概要)</p> <p>国際水準の獣医学教育を体系的に創出・実践するとともに、学際協力により深い知識と高度な技術を備えた専門性の高い獣医師を養成する。さらに、幅広い見識と倫理観を持って人間社会の質的向上に貢献できる能力を培い、問題解決能力と自己資質を向上させる能力を涵養することで、地域に根ざすとともに社会ニーズに対応した、人間地球社会を俯瞰できる人材を輩出することを教育の理念とし、次に掲げる人材を養成することを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 豊かな人間性と正しい倫理観を持ち、行動規範に従い獣医師の職務を遂行し、国際社会に貢献できる。 (2) 獣医学を基礎とした動物生命科学研究を実践するための探究心と問題解決能力を備えている。 (3) 動物感染症とその脅威を理解し、制圧のための基礎知識と技術を習得している。 (4) 高度な動物医療を適切に実践する知識と技術を習得している。 (5) 畜産資源の安定供給と安全性確保に関する基礎知識と技術を習得している。
<p>卒業の認定に関する方針 http://www.vet.kagoshima-u.ac.jp/jfvm/d_policy.html</p> <p>(概要)</p> <p>以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな人間性と獣医師としての正しい倫理観を持ち、行動規範に従い職務を遂行できる能力 2. 獣医学を基礎とした動物生命科学研究を実践するための探究心を持ち、問題解決できる能力 3. 動物感染症に関する基礎知識を持ち、その制圧に寄与できる能力 4. 高度な動物医療に関する基礎知識を持ち、適切に実践できる能力 5. 畜産資源に関する基礎知識を持ち、その安定供給と安全性確保に資する能力 6. 国際社会と地域社会に貢献できる能力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 http://www.vet.kagoshima-u.ac.jp/jfvm/c_policy.html</p> <p>(概要)</p> <p>山口大学との共同教育課程を通じて、同一授業科目を同一のシラバスおよび時間割に従って履修します。教育目標に掲げる人材を育成するために、両大学の教員がそれぞれの教育資源を有効に活用し、幅広い、専門性の高い獣医学教育を提供します。この共同教育課程のカリキュラムにより、次のような知識、技術、能力を身につけさせます。</p>

<p>1. 初年次から卒業まで系統性のある教育課程の編成</p> <p>①生命倫理と獣医倫理に関する知識を身につけるために、斉一教育科目に導入科目を配置します。</p> <p>②動物体の構造と生理機能、生体に作用する化学物質と作用機構についての基礎知識と動物生命科学の研究を行うための技術を身につけるために、斉一教育科目に基礎獣医系科目を配置します。</p> <p>③病気による動物体の変化、病原体の構造と病原性、感染症の予防と制圧に関する知識と技術を身につけるために、斉一教育科目に応用獣医系科目を配置します。</p> <p>④伴侶動物の病気とその予防・診断・治療の知識と技術を身につけるために、斉一教育科目に臨床獣医系科目を配置します。</p> <p>⑤産業動物の病気とその予防・診断・治療、生産性向上と食の安全についての知識と技術を身につけるために、斉一教育科目に臨床獣医系科目を配置します。</p> <p>⑥獣医学の高度な知識と国際社会に貢献できる能力を身につけるために、アドバンス教育としての専修教育科目を配置します。</p> <p>2. 目的・目標に応じた方法による教育の実施 学位授与の方針に掲げる能力を育成するために、各科目の目的・目標に応じた方法による教育活動を行います。</p> <p>3. 厳格な成績評価の実現 各科目において教育・学修目標と評価基準を明確に示し、厳格な成績評価を行います。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (https://www.kagoshima-u.ac.jp/exam/RO3-ippan.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>求める人材像</p> <p>発展・進化する獣医科学に取り組む知識欲と探求心，これを実践・活用する論理性と創造力，及びチーム活動と共生社会形成のためのコミュニケーション能力の素養を備えた，次のような学生を求めています。</p> <p>(1) 獣医師の幅広い職責について理解し，獣医学を志す明確な目的意識を有する人</p> <p>(2) 自然科学，人文・社会科学及び語学に関する基礎教科を満遍なく学習し，獣医学の知識や技術を十分に理解，修得するための基礎学力を身につけている人</p> <p>(3) 人と動物の健全な共生社会実現のために積極的に取り組む意思を有し，社会的にコミュニケーションがとれる人</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/houjin-soshiki-jouhou.html</p>
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	8人	—					8人
法文学部	—	46人	31人	1人	0人	2人	80人
教育学部	—	22人	36人	10人	0人	0人	68人
医学部（保健学科）	—	20人	6人	2人	15人	1人	44人
農学部	—	25人	35人	4人	9人	0人	73人
水産学部	—	16人	16人	1人	13人	0人	46人
共同獣医学部	—	17人	13人	0人	13人	0人	43人
理工学研究科（理学系）	—	21人	25人	2人	11人	0人	59人
理工学研究科（工学系）	—	39人	42人	0人	26人	0人	107人
医歯学総合研究科	—	62人	34人	28人	130人	0人	254人
大学院（その他）	—	12人	10人	0人	2人	0人	24人
附属病院	—	4人	8人	41人	140人	0人	193人
その他	—	31人	44人	8人	20人	0人	103人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		494人					494人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		http://ris.kuas.kagoshima-u.ac.jp/search?m=home&l=ja					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
法文学部	410人	414人	100.9%	1,660人	1,795人	108.1%	10人	14人
教育学部	190人	191人	100.5%	810人	881人	108.7%	若干人	9人
理学部	185人	193人	104.3%	740人	813人	109.8%	若干人	0人
医学部	230人	230人	100.0%	1,218人	1,193人	97.9%	30人	10人
歯学部	53人	53人	100.0%	318人	316人	99.3%	人	人
工学部	440人	446人	101.3%	1,800人	1,957人	108.7%	20人	24人
農学部	205人	215人	104.8%	820人	909人	110.8%	若干人	4人
水産学部	140人	145人	103.5%	560人	606人	108.2%	人	人
共同獣医学部	30人	31人	103.3%	180人	186人	103.3%	人	人
合計	1,883人	1,918人	101.8%	8,106人	8,656人	106.7%	60人	61人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
法文学部	428人 (100%)	25人 (5.8%)	329人 (76.9%)	74人 (17.3%)
教育学部	224人 (100%)	11人 (4.9%)	182人 (81.3%)	31人 (13.8%)
理学部	162人 (100%)	76人 (46.9%)	73人 (45.1%)	13人 (8.0%)
医学部(医学科)	111人 (100%)	0人 (0%)	107人 (96.4%)	4人 (3.6%)
医学部(保健学科)	117人 (100%)	11人 (9.4%)	97人 (82.9%)	9人 (7.7%)
歯学部	54人 (100%)	0人 (0%)	48人 (88.9%)	6人 (11.1%)
工学部	462人 (100%)	258人 (55.9%)	183人 (39.6%)	21人 (4.5%)
農学部	198人 (100%)	55人 (27.8%)	127人 (64.1%)	16人 (8.1%)
水産学部	143人 (100%)	42人 (29.4%)	93人 (65.0%)	8人 (5.6%)
共同獣医学部	32人 (100%)	1人 (3.1%)	26人 (81.3%)	5人 (15.6%)
合計	1,931人 (100%)	479人 (24.8%)	1,265人 (65.5%)	187人 (9.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画は、下記の
鹿児島大学のホームページで公表。

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/activity.html>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関することは、下記の鹿児島大学のホームページで公表。 https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/activity.html				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
法文学部	法経社会学科	124単位	有・無	単位
	人文学科	124単位	有・無	単位
教育学部	学校教育教員養成 課程	124単位	有・無	単位
	特別支援教育教員 養成課程*	124単位	有・無	単位
理学部	理学科	124単位	有・無	単位
	数理情報科学科*	124単位	有・無	単位
	物理科学科*	124単位	有・無	単位
	生命化学科*	124単位	有・無	単位
	地球環境科学科*	124単位	有・無	単位
医学部	医学科	242単位	有・無	単位
	保健学科(看護)	看護師課程131単位	有・無	単位
	保健学科(看護)	保健師課程149単位	有・無	単位
	保健学科(理学)	124単位	有・無	単位
	保健学科(作業)	124単位	有・無	単位
歯学部	歯学科	235.5単位	有・無	単位
工学部	先進工学科	124単位	有・無	単位
	建築学科	128単位	有・無	単位
	機械工学科*	124単位	有・無	単位
	電気電子工学科*	124単位	有・無	単位
	建築学科*	124単位	有・無	単位
	環境化学プロセス 工学科*	124単位	有・無	単位
	海洋土木工学科*	124単位	有・無	単位
	情報生体システム 工学科*	124単位	有・無	単位
	化学生命工学科*	124単位	有・無	単位
農学部	農業生産科学科	124単位	有・無	単位
	食料生命科学科	124単位	有・無	単位
	農林環境科学科	124単位	有・無	単位
水産学部	水産学科	124単位	有・無	単位
共同獣医学部	獣医学科	195単位	有・無	単位
GPAの活用状況(任意記載事項)		公表方法:		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法:		

*旧課程で令和2年度は2～4年生が在籍。

太線内は令和2年度改組となった学科。

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/activity.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
法文学部	法経社会学科	535,800円	282,000円	0円	
	人文学科				
教育学部	学校教育教員養成課程				
	特別支援教育教員養成課程*				
理学部	理学科				
	数理情報科学科*				
	物理科学科*				
	生命化学科*				
医学部	医学科				
	保健学科				
歯学部	歯学科				
工学部	先進工学科				
	建築学科				
	機械工学科*				
	電気電子工学科*				
	建築学科*				
	環境化学プロセス工学科*				
	海洋土木工学科*				
	情報生体システム工学科*				
農学部	化学生命工学科*				
	農業生産科学科				
	食料生命科学科				
水産学部	農林環境科学科				
	水産学科				
共同獣医学部	獣医学科				

*旧課程で令和3年度は3～4年生が在籍。
太線内は令和2年度改組となった学科。

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の学生生活及び修学上の支援を図ることを目的に、上級生が学生の目線で下級生にアドバイスを行うピア・サポート制度を導入し、各学部から集まったサポーターが、相談業務に加え、各種支援活動の企画・運営を行っている。 2. 障害学生支援センターにおいて障害を有する学生に対して入試事前相談、就学後の配慮、移動介助、ノートテイク等の支援等を行っている。 3. 学生の自主学習を支援するため、学習交流プラザ及び稲盛記念館等の施設を設置している。 4. 学生のあらゆる悩みや迷いに対する相談窓口として、学生何でも相談室を設置し、相談内容に応じて関係部署と連携しながら対応している。
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キャリア形成支援センターを所掌するキャリア形成支援課に民間企業出身者を含む6人の職員（うち1名は非常勤職員）と企業人事OBの就職相談員を配置し、求人その他の就職情報の提供、各種就職支援イベントの企画・実施、就職・進路相談、就職関係冊子の発行、既卒者への就職支援等を行っている。また、センターの3人の教員（専任教員2人および特任教員1人）は、地域人材育成のための3つの学部横断型教育プログラムの一つである「かごしまキャリア教育プログラム」を担当し、低学年からのキャリア教育を行っているほか、センターに配置された特任職員1人および前述のキャリア形成支援課の職員と連携し、就職・キャリア支援事業やインターンシップに取り組んでいる。 2. 県外で就職活動を行う学生のためサテライト（東京および福岡）及び宿泊施設（東京）を設置している。 3. キャリア形成支援センターにおいて、学内のインターンシップ窓口を一本化し、インターンシップの企画・実施、インターンシップ情報の提供や相談対応等を行っている。また、県内の企業・団体と連携し、全学部・全学年の学生が対象の課題解決型インターンシップも実施している。
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健管理センターで全学生を対象とした定期健康診断をはじめ、傷病等による日常の一般診療、心理担当の専任医師、心理カウンセラー及びキャンパスソーシャルワーカーによる健康・心理相談等を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/activity.html</p>
--